単元名：

「かけ算（２）～問題を作ろう～」

（全１２時間扱い中 第９時）

授業日時 2021年11月15日（月）第2校時

授業学級 2年西組

授業会場 2年西組教室

授業者

指導者

(1) 主眼（授業の手立て&ねらい）

（〇〇の子ども達が）〇〇の場面で、〇〇を通して、〇〇を□□することができる／できるようになる。

「かけ算ことば」をヒントにかけ算の仕方や式の意味を考えてきた子どもたちが、どうすればかけ算の問題を作ることができるかを考える場面で、これまで学習してきた「かけ算ことば」に着目し活用することを通して、かけ算の「オリジナルもんだいカード」を作ることが出来る。

(2) 展開

	学習活動	予想される子どもの反応	「授業者の主な発問」・※留意点・【教材】	時間
導入	1. 問題作りのよさを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・「かけ算がもっとわかるようになる。」 ・「学びになる。」 ・「九九の仕組みがわかる。」 	「ゆうと君が問題を作りたいって言うていたけどなんで？」 「問題を作ると何かいいことあるの？」 ※この発問で学習問題の意欲付けを行う。	5
	【学習問題】 かけ算のもんだいを作るにはどうすればいいのかな？			
	2. かけ算の問題のつくり方を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・「かけ算ことばを使う。」 ・「1ふくろにミカンが8こがかけられる数。」 ・「10にの『に』が大事だったよ。」 ・「～では、の『では』もかけ算言葉だったよ。」 ・「最後は何個でしょうとか何本でしょうとかだよ。」 ・「最初は1かごに、だよ。」 ・「次は3個ありますって書く。」 ・「最後は何個でしょうってつけないと。」 	「どうやって問題作る？」 「かけ算ことばって何ですか？」 ※「かけ算ことば」を用いた問題づくりのフォーマットを子どもと一緒に作る。 ※「一つ分と数」と「いくつ分」の違いに気づけるように、かけ算の式と照らし合わせて考えられる、下記のような板書をする。 $\bigcirc \times \triangle =$ ○は「一つ分の数」△は「いくつ分」 ※問題づくりの見通しが持てるように、教師がフォーマットを用いて、黒板で問題を作る例を示し、「かけ算ことば」の使用方法を確認する。	10
3. 用意された絵で問題を作ってみる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「先生がやった通りにすればできるね。」 ・「当てはめていけば出来る。」 ・「新しい自分だけの問題も作りたい。」 	「この絵だったらどういう問題になるかノートに書いてみて。」 ※できない子へは例示した問題文のどこを変えれば問題が作れそうかを声掛けしたり、一緒に考えたりする	5	
【学習課題】 かけ算ことばをつかって「オリジナルもんだいカード」をつくらう！				

展開	<p>3. かけ算ことばを使って、身の回りもので問題を作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「この口に文字を入れればいいのか。」 ・「鉛筆で問題を作ろう。」 ・「1箱に鉛筆が3本入っています。5箱では何個になるでしょうか？」 ・「式は$3 \times 5 =$になるな。」 ・「ヒントがなくても出来た。」 ・「2枚目出来た。」 ・「これでいいのかな。」 ・「友達にも出してみたい。」 ・「友達の問題を解いてみたい。」 	<p>「オリジナルもんだいカードを作ってみよう。」</p> <p>※やり方がわからず困っている子には、「黒板の型に当てはめてみよう。」などの声かけをしたり、一緒に考えたりする。</p> <p>※すぐ出来てしまった子にはよりかけ算の式の意味を理解するために、2枚目、3枚目を作るように促す。</p>	15
終末	<p>4. かけ算の問題を作るときに大切なことを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ちゃんとかけ算の問題になっている。」 ・「かけられる数はこれで、かける数はこれかな。」 ・「よい問題が出来たね。」 ・「かけ算ことばを使う。」 	<p>完成したカードを回収する。</p> <p>※かけ算の問題を作るときに大切なことが確認できるように、子どもたちの考えた問題を ICT 機器を使い全体に共有する。</p> <p>「問題を作るときに大切なことは？」</p>	10

【本時の評価（評価する対象）】
 かけ算の「オリジナルもんだいカード」を作ることが出来る。